

2023
11/1

青森県小児科医会 オンライン学術講演会

コロナ感染状況により、本会を延期または中止する場合がございます。その際はご登録いただいたアドレスへメールにてご案内させていただきますこと、ご了承ください。

2023
11/1 水 19:00~20:00

座長 すわクリニック 院長 後藤 麻美 先生

『小児にみられる 問題行動に対する対応』 ～家庭での生活リズムの大切さを考える～

演者 とちぎメディカルセンター
しもつが 小児科 杉田 憲一 先生
獨協医科大学小児科特任教授

登録

本会はオンライン開催となります。登録方法に関しては、裏面をご確認ください。
URL : <https://onl.tw/JqrC4hY>



【要旨】

まず、外来診療の実際を示す。基本的には、以下の6項目に注目。1. 子どもの状況（不登校、ゲーム依存、家庭内暴力ほか）、2. 身体症状、自傷行為など、3. 器質的疾患の否定（例：気管支喘息、膠原病、急性白血病など）、4. 環境の良否：学校、家庭、本人の生活習慣、5. 子供の特性：発達神経症（自閉症、ADHD他）、その他、6. 精神疾患の存在の有無、以上の問診で状況の理解に努めます。

次に、自験例を提示します。1つ目は、「公立の小中学校に通う生徒8.8%に発達障害」との昨年12月の文科省報告についての検討。教師により気づかれた「問題行動」から、医療機関を受診した単一の小学校の児童を対象にした。その結果、3分2を発達障害とした。集中力が悪いが最も多い受診理由であった。家族にとっては、病気のように見られるのがつらいという意見もあった。時に、学習障害の解釈の問題：「学習障害」と「学力の問題」を混同？がみられた。経過では、早期発見になっていて改善率が高い結果であった。ただ、学校で問題はない発達障害児（自閉スペクトラム症の一部）は、見過ごされる可能性を感じた。

2つ目は、生活リズム、特に睡眠障害に対する薬物療法の効果を示す。神経発達症の子どもは睡眠障害の有病率が高く、自閉スペクトラム症の50%、注意欠如・多動症の25%以上と言われている。今回、神経発達症に伴う睡眠障害の改善を目的に、入眠困難の改善剤のメラトニン製剤（メラトベル顆粒小児用0.2%）を投与し、内服2週後に親からの聞き取りで判定した。約90%で効果を認めた。中途覚醒の消失、離床への改善もあった。入眠潜時改善の半数例では1時間以上の短縮を示した。また睡眠以外にも、身体症状の消失、不登校の改善、意欲の低下の改善、夜尿の消失などがあった。加えて、その他の診療で気づいたことも示す予定です。

ご視聴までの流れ

1.事前の参加登録

***当日11/1(水)開催時刻前までにご登録をお願いいたします。**

URLまたはQRコードからお入りください。視聴登録画面が立ち上がります。

ご自身の「お名前」「メールアドレス」「ご施設」「職種」「所在地」等をご入力ください。

事前登録用URL

<https://onl.tw/JqrC4hY>

QRコード



Zoom

ウェビナーID : 856 0862 2124

パスコード : 20231101

2.ご登録完了後

ご入力 of メールアドレスに登録完了の案内が届きます。

メールに記載のリンクからセミナーのページに入ることができます。

3.講演会当日

お時間になりましたらご案内のリンクよりご入室ください。

すでにZoomアプリをお持ちの先生は「Zoom meetingを開く」をクリックしてください。
Zoomをお持ちでない先生は「Zoomをダウンロードして開始してください」を選択します。
アプリをインストールするよう促されますので「実行」をクリックして参加可能です。

<本講演会に関するお問い合わせ先>

ノーベルファーマ株式会社 中部東日本営業部
東北エリア 高村 範人 携帯電話 : 080-9365-8620
メールアドレス takamura@nobelpharma.co.jp

<当日の視聴に関するお問い合わせ先>

有限会社ヤマダプランニング 電話 : 019-635-6011